

2025年2月号

山形県最上総合支庁 隔月発行

最新情報はツイッターでご覧ください



おおくら雪ものがたり
「おおくら君 30 世」(大蔵村)

陸羽東西線の早期復旧に向け要望

昨年7月の豪雨災害の被害を受けた陸羽東線、および国道47号の高規格道路の高屋トンネルの工事に伴い運休している陸羽西線の早期復旧に向け、陸羽東西線利用推進協議会からJR東北本部へ要望書の提出を行いました。陸羽東西線利用推進協議会は、新庄市を事務局として陸羽東西線の沿線自治体やその関係団体で構成された協議会であり、要望会へは会長の新庄市長のほか、副会長の酒田市長、大崎市長、協議会の理事である山形県として最上総合支庁長が出席しました。また、宮城県も同席し、沿線関係者一体で要望活動を行いました。

JR東北本部長へ直接要望書を手渡すとともに、通勤通学をはじめ山形県と宮城県を結ぶ非常に重要な交通

基盤であり、経済への影響が大きいことなどを伝え、1日も早い復旧に向けた対応をお願いしました。

最上地域での生活における重要な交通機関である陸羽東西線の早期復旧に向け、最上総合支庁としても今後も沿線自治体や関係団体と協力し、取り組んでまいります。

[連携支援室 29-1238]



入賞作品が決定 第9回最上小国川写真コンテスト

1月9日、最上小国川清流未来振興機構が主催する「最上小国川写真コンテスト」の審査委員会が舟形町中央公民館で行われました。

本年度で第9回となった本コンテストでは、県内外28名の方から、計75点のご応募をいただき、その中から入賞作品12点を決定しました。

最優秀賞に選ばれた作品は、子どもの満足感あふれる表情を捉え、募集テーマ「未来に伝えたい、私たちの最上小国川」を見事に表現した、加藤修一さん(舟形町)の『初めてのヤナ漁』です。

また、2月4日、舟形町中央公民館で表彰式を開催し、審査委員からの講評や、入賞者から作品への想いなどをお話いただきました。



入賞作品は、今後、最上総合支庁ロビー等への展示や、HPやSNSで公開していきますので、ぜひご覧ください。

今後もこうした活動を通して、最上小国川の魅力の発信に取り組んでまいります。

[連携支援室 29-1239]



最優秀賞『初めてのヤナ漁』
加藤修一さん(舟形町)

「新庄・最上ジモト大学チャレンジラボ」開催！

--SNSで情報発信中--



Facebook

Instagram

12月25日、ジモト大学の活動への理解を深めてもらうため、「新庄・最上ジモト大学チャレンジラボ2024」を開催し、高校生や大学生、地域の大人など50名の方にご参加いただきました。

第1部では、ジモトの高校生が、自ら企画したプログラムや学校の課題研究の成果を発表しました。活動をサポートした地域の大人の方々からも活動のきっかけなどをお話いただきました。

第2部の「ジモト大学チャレンジラボ」では、7つのグループに分かれてオリジナルプログラムを作りました。参加者は自由にアイデアを出し合い、金山杉で作ったスリッパ「スギッパ」をPRするフェスや、真室川駅前での原木なめこ大食い大会、戸沢村の幻想の森でのヒーリング体験など、最上地域の魅力を詰め込んだプログラムを考えました。

来年度はさらに“ワクワク”するジモト大学をお届けできるよう、引き続き地域の皆さんとともに取り組んでまいります。

[連携支援室 29-1236]



一歩²フェスタ 2024 開催！

12月7日、最上広域交流センターゆめりあ「花と緑の交流広場」を会場に、「一歩²フェスタ2024～未来へつなごう あなたの一歩 ～30周年～」を開催しました。

障害者週間（毎年12月3日から9日まで）の記念事業として、障がい者福祉の増進と障がい者間の交流を図ることを目的に、最上管内の障がい者施設が実行委員会となって毎年開催しているイベントです。

今年は、コロナ禍で中止していた障がい者施設の利用者やボランティアによる歌やダンスなどのステージ発表を5年ぶりに再開し、最後には、書家の金澤翔子さんより見事な席上揮毫が披露され、会場は大いに盛り上がりました。

会場では、施設を紹介するパネル展示や、施設利用者の手作りクッキー、木工製品などの販売を行い、来場者の皆さんにも楽しんでいただきました。

当日は小雪が舞う寒い日でしたが、障がいを持つ方への理解と交流を深めた暖かい催しになりました。

[地域健康福祉課 29-1277]



令和6年度最上地区青少年育成懇談会 ～大人と生徒の対話会～

地域の将来を担う青少年の健全育成を推進するため、生徒と地域の大人の対話会を兼ねて最上地区青少年育成懇談会が、令和6年12月8日（日）に新庄市の雪の里情報館で開催されました。当日は、地区内の高校生と青少年育成推進員など青少年育成関係者51名が、「これからの社会をたくましく生き抜いていくために」をテーマに、4グループに分かれてワークショップ型で懇談しました。グループ懇談の前には、少年サポートセンター最北 井上 聖子 上席少年補導専門官より、青少年を取り巻く環境と社会の課題として、身近で起きている具体的な事案をもとに闇バイトや薬物（大麻）、SNSでのいじめや性被害などについてお話いただきました。

グループ懇談では、どんな地域社会を作っていきたいかや、自分自身のあるべき姿や役割、身に着けておきたい資質・能力、スキルなどについて意見交換し、後段では、青少年育成関係者が高校生にアドバイスしながらグループごとに地域を明るく・元気にするメッセージ（標語）を作成し、最後の全体会で互いに発表しました。

生徒と大人の対話・交流を通して、将来の生き方や地域づくりについて考える貴重な機会となりました。

[子ども家庭支援課 29-1221]



アンコンシャス・バイアスセミナー ～性別による無意識の思い込みに気づく～



令和6年12月9日（月）、東北農林専門職大学にて、主に若者世代を対象にアンコンシャス・バイアスセミナーを開催しました。同大学の学生を中心に、大学教職員や一般の方々も含め多くの方にご参加いただきました。

県男女共同参画センター「チェリア」館長の伊藤眞知子氏をお迎えし、性別に基づく物の見方や捉え方のゆがみ・偏り、根拠のない思い込み等について、日常生活への影響など具体例を交えながらわかりやすく講義いただきました。

後半は、参加者同士でグループワークを行い、ケーススタディを通して具体的な思い込み等の事例を考えていく中で、一般の方々や若い人の捉え方の違いなどもあり、活発な意見交換が行われました。

参加者からは、「自分の中に潜んでいた偏見に気付くことができた」「日常の中で意識していきたい」などの感想が寄せられ、非常に有意義な時間となりました。

[子ども家庭支援課 29-1245]



セルフケアセミナーを開催しました

～若い男女が将来のライフプランを考え日々の生活や健康に向き合うために～

12月20日（金）東北農林専門職大学附属農林大学校の1、2年生100名を対象に、セルフケアセミナーを開催しました。

「素敵な大人になるために～今できるセルフケア～」として、保健師による体幹トレーニングの実践、プレコンセプションケアノートを基にした、将来のライフプランを考えて日々の生活に向き合うための基礎知識、女性相談員によるデートDVなどの講義を行いました。

プレコンセプションケアとは、若い男女が将来の妊娠・出産を考えながら自分たちの生活や健康に向き合うことです。今と未来の自分だけでなく、未来の子どもたちの健康にもつながるということで、近年注目されているヘルスケアです。

最上保健所では引き続きプレコンセプションケアを推進し、多くの若い方々に知ってもらえるよう取り組んでまいります。

[子ども家庭支援課 29-1361]



プレコンセプションケアノート
に関する情報はこちらから ⇒



進路を考える学習会～めざせ医療・介護のしごと～

最上地域の医療・介護分野の人材確保を図るため、管内の小中学生を対象に、将来の職業として医療・介護の仕事に関心を持っていただけるよう「進路を考える学習会～めざせ医療・介護のしごと～」を開催しています。

今年度第3回目として、1月30日に鮭川村立鮭川中学校2年生を対象に開催しました。今回は、看護師・臨床検査技師・診療放射線技師・介護福祉士を講師にお迎えして、仕事の内容やこの仕事を選んだ理由、最上地域で働く魅力などについて講演いただいた後、各ブースに分かれて体験学習を行いました。

生徒たちは、バイタル測定体験（看護師）、血液型検査体験（臨床検査技師）、レントゲンの取り方体験（診療放射線技師）、移動介護体験（介護福祉士）などに興味深く取り組み、医療・介護分野への興味・関心が高まったようです。



[保健企画課 29-1257]

節分にぴったり！これを食べれば福は内！

～最上まるごと食べ尽くせランチ～ 提供

最上総合支庁では、旬の食材の消費拡大、地産地消の推進を目的として、支庁内食堂「お食事処千起」と連携して「地産地消定食」を提供しています。1月24日には新庄東高校Tコースと家庭科部の生徒が考案した定食「2025 これを食べれば福は内！～最上まるごと食べ尽くせランチ～」を提供しました。節分をテーマに、金山町産「米の娘ぶた」や「雪の下野菜」、最上伝承野菜の豆類、新庄市産「ラズベリー」など、最上地域の旬の食材をふんだんに使用したメニューで、生徒たちはこの日のために試作会を行い、メニュー内容を試行錯誤してきました。

また、当日は食堂で来店者に定食メニューを紹介し、地産地消を呼びかけました。来店者からは「ネーミングが楽しく美味しかった！また食べたい」との声が聞かれ、大盛況のうちに終わることができました。

今回のメニューのレシピは最上伝承野菜のSNSに掲載していますのでぜひご家庭でも作ってみてください！農業振興課では今後も地元高校生と連携した食育・地産地消の取組みを積極的に行ってまいります。



[農業振興課 29-1315]

農林水産大臣賞受賞 おめでとうございます

大山進氏（戸沢村大字角川）は、60年にわたる、最上地方の森林整備とたらの芽やワラビなどの産地化の取り組みが評価され、第63回農林水産祭 全国林業経営推奨行事において、最高賞の農林水産大臣賞を受賞されました。

本県からの同賞の受賞は、平成23年以来12年振りとなります。

平成14年に山形県の指導林業士となり、同28年からは、県林業士会の最上支部長を務めるなど、同地域の林業振興に寄与されました。特に、タラノキの穂木を13,000本育成するなど、全国1位の生産量を誇る山形県のたらの芽の生産拡大に大きく貢献されました。また、たらの芽栽培技術の普及に必要なマニュアルを最上地域で初めて作成するなど、栽培者への技術指導に尽力されました。

[森林整備課 29-1347]



栄えある賞を受賞された管内の優れた農業者の皆さまを御紹介いたします！ おめでとうございます！

○大日本農会紫白綬有功章 栗田幸太郎氏（真室川町）

和牛の繁殖肥育一貫経営による高品質和牛の生産と土着菌による堆肥発酵促進材「うまみの素ワーコム」を開発し、ワーコム農法による環境保全型農業を実践しています。国内のみならず海外でも環境保全型農業を指導し、農業実践道場「拓土塾」では塾長として、後進の育成を行っています。山形県では初めての「紫白綬有功章」受賞になります。



○大高根農場記念山形県農業賞 川又義弘氏（真室川町）

転作田を活用した県内最大の11haの「にら」大規模生産を行っています。「にら」の選別等で地域の雇用を創出するとともに、最上地域の「にら」のブランド化に大きく貢献しています。また、長年にわたり学生の技術研修を受け入れて指導にあたり、若手生産者の育成に努めています。



○山形県ベストアグリ賞 農業生産法人もがみグリーンファーム株式会社 代表 大場利秋氏（最上町）

最上町内の農地を一手に引き受けて水稻やそば、大豆の栽培のほか、水稻、そば、大豆の延べ約351haの作業を受託して、地域農業を支えています。また、系列の「川の駅『やな茶屋』」で提供しているそばの原料供給や福祉施設に米を利用するなど、地域にも広い分野で大きく貢献しています。



[農業技術普及課 29-1322]

冬もどこのう！～最上小国川でテントサウナ～

12月14日、最上町赤倉温泉を会場に、「最上小国川テントサウナ体験イベント」を実施しました。

川沿いにテントサウナを設置し、参加者は、雪景色の最上小国川と赤倉温泉街が作る絶景の中でのサウナという、夏季のイベントとは一味違う、非日常的な体験を楽しんでいただきました。

中には、雪の中に飛び込む参加者も…!? [連携支援室 29-1239]



東北農林専門職大学・令和6年度市民講座の開催

東北農林専門職大学では、大講義室において一般市民向けの講座を年明けから3回企画したところ、総勢200名を超える参加者と活発な質疑応答があり、盛会裏に開催されました。1月11日の第1回は、“食”をテーマとして穂波街道 緑のイスキアの 庄司 建人 氏、1月25日の第2回は、“自然と環境”をテーマとして山形県森の案内人の 矢口 末吉 氏、2月1日の第3回は“地域活性化”をテーマとして吉野敏充デザイン事務所の 吉野 敏充 氏からご講演をいただき、大学の教員による講演と併せて各回2部構成で行いました。

今後とも、地域の住民等との交流と、地域の振興・活性化のシーズ等を発見する機運の醸成を図る場として、市民講座を開催してまいります。 [東北農林専門職大学 22-1527]



大講義室の様子(神山学長挨拶)



第1回講師 庄司 建人 氏



第2回講師 矢口 末吉 氏



第3回講師 吉野 敏充 氏

Information

今年度最後のおいしい適塩ランチをお試ください

減塩でもおいしく食べる工夫をお知らせし、健康な食生活を実践するきっかけとしていただくため、最上総合支庁の食堂で年4回「おいしい適塩ランチ」を提供しています。



【第4弾メニュー】 (2/19実施)

- * 鶏肉の香草パン粉焼き
- * 冬野菜たっぷり豆乳のみそ汁
- * 切り干し大根のシャキシャキサラダ
- * ごはん
- * フルーツ



詳しい作り方等は
こちらから♪

ぜひお試しください！

[地域健康福祉課 29-1267]



女性の健康週間



3月1日から8日は女性の健康週間です。

女性の社会進出が進み、ライフスタイルの多様化に伴い、健康課題も変化していきます。

女性が生涯を通じて健康で明るく充実した日々を過ごしていくために大切なことを、この機会に考えてみませんか。

日時：3月3日(月)～10日(月)

場所：最上総合支庁ロビー

内容：女性の健康に関する情報を展示
ぜひお立ち寄り下さい。

「女性の健康推進室ヘルスケアラボ」→
女性の健康を支援するために厚生労働科
学研究費補助金により研究班が作成し、
情報発信を行っています。ご活用下さい。

[地域健康福祉課 29-1267]



新規就農者研修会を開催します

今年、新たに農業を始める方や農業の技術習得中の方々を対象とした研修会を行います。

日時：3月4日(火) 午後2時～4時

場所：ゆめりあ会議室

内容：①新規就農を支援する研修制度や事業の紹介
②ベテラン農業者(農業士)と新規就農者の
交流と相談会

市町村やJAの担当者、
農業技術普及課の職員も
参加しますので、技術的
な相談もできます。

参加希望の方は下記の
電話にご連絡ください。

[農業技術普及課 29-1322]



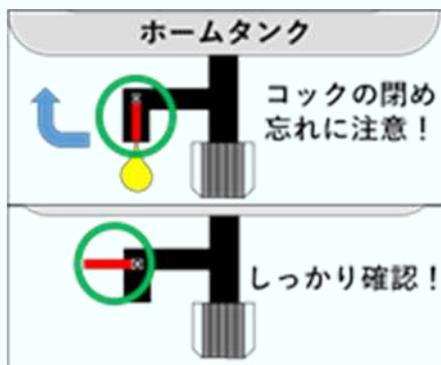
灯油の取扱いにご注意ください！

灯油を使うことが多い冬期間、うっかりミスで灯油が側溝や河川に流出する事故が増えています。

ホームタンクからポリ容器に移しかえるときは、その場を離れず、給油後は元栓をしっかりと閉めましょう。

また、タンクや配管に破損がないか、常に点検しましょう。

適切に灯油を扱って、最上地域のきれいな環境を守りましょう。



[環境課 29-1286]

狂犬病予防接種をしましょう！

狂犬病の予防接種は4～6月を予防月間として飼い主の皆さまに注射をお願いしています。

室内犬、体格の大小に関わらず、毎年1回予防接種を受け、注射済票の交付を受けましょう。

○接種時期：毎年4～6月

○接種場所：各市町村の集合注射会場又は動物病院

予防接種を行うことで、愛犬が狂犬病にかかることを予防し、人への感染も防ぐことができます。



[保健企画課生活衛生室 29-1261]

「やまぽっか(やまがた省エネ健康住宅)」の家に住んでみませんか？



冬にトイレに行こうと廊下に出るとヒヤッとすることはありませんか？断熱性能の低い住宅だと、リビングなど普段いる部屋だけを暖房するため、廊下やお風呂、脱衣場などとの温度差が発生します。この温度差は、心筋梗塞などを引き起こす要因になります。

また、最近高騰している電気やガス、灯油など、断熱性能が低い住宅では、快適な温度を保つのに多くのエネルギーを必要とします。

このようなことから考えられた、健康にもお財布にもやさしい住宅が、「やまがた省エネ健康住宅」です。

○「やまがた省エネ健康住宅」とは

最も寒い時間の就寝前に暖房を切っても翌朝の室温が10度を下回らない断熱性能と、その断熱効果を高める気密性能を有する住宅をいいます。

○「やまがた省エネ健康住宅」の基準・認証

山形県では、独自に3つのグレードの断熱性能(UA値)と気密性能(C値)を定めており、国の義務化基準の等級4を超える世界レベルの断熱性能の基準となります。(表1)

これらの性能を持った住宅について、県が設計・施工・完成の3段階で審査等を行い、認証するものです。

○見学会を実施しました！

最上管内の住宅関係事業者を対象に「やまがた省エネ健康住宅」の見学会を実施しました。

その様子をYouTubeにて動画配信しています。

ぜひ、ご覧ください。

[建築課 29-1420]



(表1：県と国の省エネ基準)



チャンネルはこちらから

発行日：令和7年2月17日

発行元：山形県最上総合支庁総務企画部

総務課 総合案内窓口

電話：0233-29-1360

FAX：0233-23-2605

X (旧 Twitter)

HD

